The National Association of College Teachers for Japanese Language and Literature Education

日本語教育の教材と指導法
― 国語教育との関連に留意して ―

埼玉大学大学院　　山田　薫

在日外国人の増加に伴い外国人児童・生徒が増加し、学校においても日本語教育を行う必要性が高まっている。成人に対する日本語の指導実践や教科書は多くみうけられるが、子どもを対象としたそれらはその必要性にかかわらず少ないといえる。本研究は日本語の指導実践についての内容と方法の整理・考察、日本語教育の教材の検討を通し、外国人児童に対する日本語の効果的な指導法と教材を提示しようとするものである。読解指導を行う場合、国語教育における読解指導と変化をつけるべき点はどこか、共通する部分は何かに留意して研究を進めている。研究の経過は以下の通りである。

1．学習段階と学習目標の検討
2．日本語教科書に採られている教材の調査（文章の種類と長さ・練習問題の検討）
3．「読解」の概念と指導法（先行論文の検討）
4．外国人児童のための「精読」用教材と指導法
5．外国人児童のための「速読」用教材と指導法

1～3において、〈ａ〉日本語の学習段階・学習目標とその中での読解学習の位置づけ、〈ｂ〉中級日本語教科書の教材文の種類と練習問題の特徴、〈ｃ〉日本語教育における「読解」の概念は、「精読」と「速読」の二つととらえられること及びそれぞれの意義と問題点、〈ｄ〉「精読」の指導で行うべき点、等を明らかにした。

これらをふまえ、次のような仮説を立てた。

日本語の文章を読むためには、

Ａ　漢字、語彙、文型の理解と習得

Ｂ　文と文、段落と段落の関係、内容など、文のまとまりでの理解

が必要である。

「精読」の指導においては、Ａを重点にＢの基礎までを行いたい。また、「速読」の指導においては、Ｂを重点に指導することにより、日本語の読解力をつけることができると考える。

したがって、日本語の学習者には「精読」と「速読」の二つの指導が必要であると考える。

本発表では以上のような研究状況と仮説の上に立ち、研究の経過の５「外国人児童のための『速読』用教材と指導法」に焦点をあて、速読用教材を選ぶ観点、速読の指導事項について考察し、指導法の一試案を提案してみる。

NII-Electronic Library Service